

1級建築施工管理技術検定

- ✓ 2029年度以降は、一次合格後の実務経験しか使えなくなるため、早期の受験が有利
- ✓ 施工管理のスペシャリストとして認められ、責任あるポジションにつけるだけでなく、キャリアの向上につながります
- ✓ 合格時奨励金(一次3万円、二次10万円)や資格取得後の手当(月額1万円)等の金銭面でもメリット

第一次検定の受験資格

試験実施年度に満19歳以上となる者（令和8年度に申請する場合、生年月日が平成20年4月1日以前）

第二次検定の受験資格

● 旧受験資格（～2028年度まで）

学歴・保有資格	建築系学科	その他学科
大学	実務経験 3年以上	実務経験 4年6か月以上
短大・高専・専門	実務経験 5年以上	実務経験 7年6か月以上
高校	実務経験 10年以上	実務経験 11年6か月以上
学歴不問	実務経験 15年以上	
2級合格者	合格後 実務5年以上	

● 新受験資格

前提資格	必要な実務経験
1級一次合格	一次合格後 実務経験 5年以上
	一次合格後 実務経験 3年以上 ※特定実務 1年以上含む
	監理技術者補佐 1年
2級二次合格	2級合格後 実務経験 5年以上
	2級合格後 実務経験 3年以上 ※特定実務 1年以上含む
1級建築士合格 ※1級一次検定免除	建築士合格後 実務経験 5年以上 建築士合格後 実務経験 3年以上 ※特定実務 1年以上含む

※令和11年度(2029年度)以降は旧受験資格は廃止となり、新受験資格のみとなります

特定実務経験とは

- ✓ 請負金額5,000万円（建築一式8,000万円）以上
- ✓ 監理技術者・主任技術者・その指導下での施工管理
- ✓ 工程管理・品質管理・安全管理・原価管理に関与



監理技術者補佐とは

- ✓ 1級建築施工管理技士補（一次合格）
- ✓ 主任技術者として配置可能な資格・経験を有する
- ✓ 監理技術者の専任配置が必要な工事であること
- ✓ 監理技術者の職務を専任補佐（兼務不可）
- ✓ 施工体制台帳等に「監理技術者補佐」と明記

※ 横で手伝った、サブ担当、名前が載っていないは該当しない

主任技術者とは

学歴	建築系学科	その他学科
大学	実務経験 3年	実務経験 5年
短大・高専・専門	実務経験 5年	実務経験 7年
高校	実務経験 10年	実務経験 12年
学歴不問	—	実務経験 15年

※ 監理補佐には主任技術者として配置できることが必要

二次検定 実務年数セルフチェック

■ あなたの実務開始：_____年_____月

	● 旧受験資格	● 新受験資格
判定基準	申請年度の3月31日時点	一次検定合格日（2026年度合格とする）
必要年数	_____年_____か月(例：建築系大学で3年)	3年（特定実務1年以上含む）
到達予定	_____年_____月	2029年3月
二次受験可能年度	_____年度	2029年度(令和11年)

※ 2028年度までは、旧受験資格と新受験資格のうち早い方の年度で受験可能